

すいた みなみ しょうがっこう
吹田南小学校だより 平成29年
(2017年)
11月30日
—全国学力学習調査結果報告—

～平成29(2017)年度

全国学力学習状況調査結果報告～



去る4月18日に行われました全国学力学習状況調査の結果について学校だより特別号として報告いたします。

1. 全国学力学習状況調査とは

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために国(文部科学省)が行っているものです。学校においては児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、小学校では6年生を対象に実施されているものです。

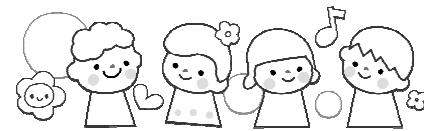
2. 調査内容

小学校においては国語科、算数科に関する調査で、主として「知識」に関する問題(A問題)と主として「活用」に関する問題(B問題)、児童の生活習慣や学校環境に関する質問紙調査を実施しました。

3. 結果についての考え方

調査については同一問題かつ全国規模で行われたものですので、学校における学力の定量的尺度の1つとして学力傾向を知るための手立てとなるものと考えます。しかしながら、調査は6年生のみを対象としたものであり、教科も国語と算数に限られていることから、測定されたものは全ての学力を網羅したものではなく、正答率だけをもって順位、序列等を考えることは調査の趣旨にそぐわないものと考えます。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいを達成するものと考えます。

4. 調査結果の分析



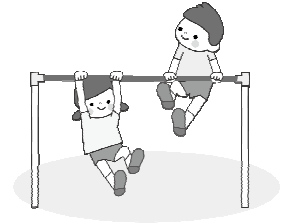
(1) 全体傾向

教科全体の傾向としては国語がA問題・B問題とも全国値を下回り、算数においてはA問題・B問題とも全国値をやや上回りました。

(2) 国語について

<A 主として知識を問う問題>

設問を観点別に分けてみると「話す・聞く能力」は全国値を下回り、「書く能力」「読む能力」は全国値をやや下回りました。「知識・理解・技能」については全国値をやや下回っています。



<B 主として活用を問う問題>

同じく設問を観点別に分けて見ていくと「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」のいずれも全国値を下回りました。

<国語における課題点>

A問題で正答率が低かったのが「4年生のきぼう者」の「きぼう」を漢字で書く問題【国A7(2)】、また「事務所前」の漢字(事務所)を読む問題【国A7(4)】でした。「希望」はどちらも4年生で習う漢字で「事・所」は3年、「務」は5年で習う漢字です。漢字は習った時には覚えていると思いますが、時間が経つと忘れてしまうもので日頃から使うことが大事です。また、B問題ではスピーチについての考え方を書く問題【国B1(3)】で、①スピーチメモ、グループの話し合いの様子から取り上げる ②スピーチにふさわしい言葉遣いにする ③書き出しの言葉に続いて80字以上100字以内でまとめる という3つの条件に沿って書く問題に課題が見られました。しかしこの問題の無答率は全国値より低く、問題にしっかりと向き合っている様子がうかがえました。条件があると書きにくいと思うかもしれませんが、逆にそこに沿って書けばいいわけで、ある意味「ヒント」として活用できます。ただ、このような書き方には普段から慣れておく必要があります。また、「発言の意図を4つの選択肢から選ぶ」という問題では無答率がやや高かったことが気になりました。選択式なので問題としては取り組みやすいはずなので、粘り強く問題に取り組んでほしいと思います。



(3) 算数について

<A 主として知識を問う問題>

算数Aでは多くの項目で全国値を上回りました。特に「 $5 \div 9$ を分数で表す」【算A2(4)】、また、リボンの長さや代金の関係を数直線に書き込む問題【算A1(2)】の正答率が高かったです。無答率も国語に比べると全体的に低いことが伺えました。

<B 主として活用を問う問題>

算数Bではほぼ半数の項目で全国値を上回りました。特に与えられた情報から「基準量」「比較量」「割合」の関係を捉え、答えを選択して理由を書くという問題【算B5(2)】、では高い正答率を示しています。

<算数における課題点>

算数は概ね全国値に近い値か上回る値でしたが、なかには $6 + 0.5 \times 2$ という足し算

と掛け算が混じり、小数が入るような問題【算A2(3)】、そして平行な直線に交わる線を3等分する点を見つけるという問題【算B2(2)】、また、統計資料にふさわしいグラフを選ぶ問題【算B4(2)】に課題が見られました。無答率が高かったのはB問題の2桁の引き算の答えを求めるときに掛け算を使う方法を書く問題【算B1(3)】、仮の平均の考えを活用して測定値の平均を求める問題【算B3(2)】でした。これらの問題ではさまざまな情報がある中で必要な情報がどれかを判断することが問われていますが、的確に判断するためには授業だけではなく日常的な現象を数理的に捉えることが必要です。



(4) 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙の結果）

【自分自身について】

「友達との約束を守っていますか」という設問に対しては「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合わせると全国値をやや上回っています。また、「自分には良いところがあると思いますか」という設問に対しては否定的解答が3割を超え自己肯定感の低さが気になります。そして「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対して1割近くもの子が否定的回答をしており、大きな課題として取り組みの必要性を感じています。

【学校生活について】

「学校に行くのが楽しいと思いますか」という設問で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とした児童は全国値を下回りました。「学校で友達に会うのは楽しいですか」という設問については「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると全国値をやや上回っています。また、「学級会などの話し合い活動で異なる意見や少数意見の良さを生かしたり折り合いをつけて意見をまとめたりしていますか」という設問については、「そう思う」と答えた児童は全国値を下回っています。



【生活の様子】

「毎日同じ時刻に寝ていますか」という設問については「している」と答えた子が全国値より下回ったのに「毎日同じ時刻に起きていますか」という設問では全国値とほぼ同じでした。この傾向は昨年と同じですが、就寝時刻は定まっていないが朝は学校に行くために決まった時刻に起きていることが伺えます。睡眠時間が足りているのかが心配です。また、「将来の夢はありますか」や「自分には良いところがあると思いますか」という項目では肯定的回答が全国値より下回る結果でした。そして「家の人と学校の出来事についてよく話していますか」という設問に対して3割を超える子が否定的回答をしていました。

【家庭学習について】

「学校の学習以外に1日あたりどれくらい勉強しますか」という項目に対し、1番多かったのは「30分以上1時間未満」で、次が「1時間以上2時間未満」でした。また、2割

くらいの子が「30分より少ない」「まったくしない」と回答していました。「家で予習・復習をしていますか」という設問では、どちらも7割近くの児童が否定的回答をしています。宿題についてはほぼ全員が「している」と回答しているので、必然性があればきちんと取り組む姿勢ができています。プラスαの学習にも取り組む意欲を育てたいものです。

(5) 今後の取り組みについて

■ 学校が取り組んでいくこと

現在、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、校内研究を進め、授業での実践を行っています。「主体的・対話的で深い学び」とは自分の考えをまとめ、ペア交流やグループ学習を行うことによって、友達と考え方との違いや同じところに気づいたりすることができるので、結果として学びをより深めたり広げたり、あるいは応用力が身に付いたりします。また、学んだことを発表・交流することで、人前で発表する力がつき、周りから認められることで自尊心を高めていくことをめざしています。

基礎学力の面では、スタディーアップやスモールステップによるプリント学習によって、今までの学年で理解が十分でないままになっている学習を補充し、確実な学力を身につけていきます。

■ ご家庭で取り組んでいただきたいこと

学校で習った学習内容を復習するという意味で宿題を出していますが、それだけではなく、自らの興味や関心に基づいて探求する「家庭学習」についても、自ら学ぶ姿勢を育てるものとして重要であると考えています。「課題を見つけるのが大変」という声もお聞きますが、自らの興味があることや、新聞やTVで見聞きしたニュースに関する学習、学校での学習から発展または派生した内容の学習など、アドバイスをしていただけたらと思います。また、家庭の中でいろいろな物事について話し合うというような機会（「ニュースで言っていた〇〇についてあなたはどう思う？」というような会話）を多くもっていただけたら、それ自体が価値ある学習となります。ご協力いただきますよう、よろしくお願いたします。（家庭学習の進め方については学校のHPでもご覧いただけます。）

文中の表記について

問題の説明の後に書いてある 例【算B2(2)】は「算数B問題の大問題2の中の小問題(2)」であることを示しています。この紙面では問題全文を掲載することができませんので、一度問題文をお読みいただけたらと思います。問題文は [国立教育政策研究所](#) > [全国学力・学習状況調査](#) > [平成29年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について](#) にあります。

吹田市教育委員会でも「平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要」を吹田市ホームページを通じて発表しております。ぜひご覧ください。

[吹田市トップページ](#) → [部課組織一覧](#) → [学校教育部](#) → [指導室](#) → [メニュー](#)